

脱炭素社会への貢献が  
期待されている

あらゆる物流ニーズを創造し、  
提案力が期待されている

## いすゞは変わります

100年に1度の変革期において、環境変化は日増しに加速しており、事業は複雑性を増しています。いすゞは、こうした状況下で様々な社会課題を解決し、商用車業界をリードする存在になるべく挑戦したいと考えています。そのためには、いすゞグループ従業員一人ひとりが高い視座に立ち、同じ価値観を共有しながら、一丸となって社会課題の解決に取り組むことが必要と考え、2023年5月に、その指針となる新たな経営理念体系「ISUZU ID」を策定しました。

一流のリーディングカンパニー  
であることが期待されている

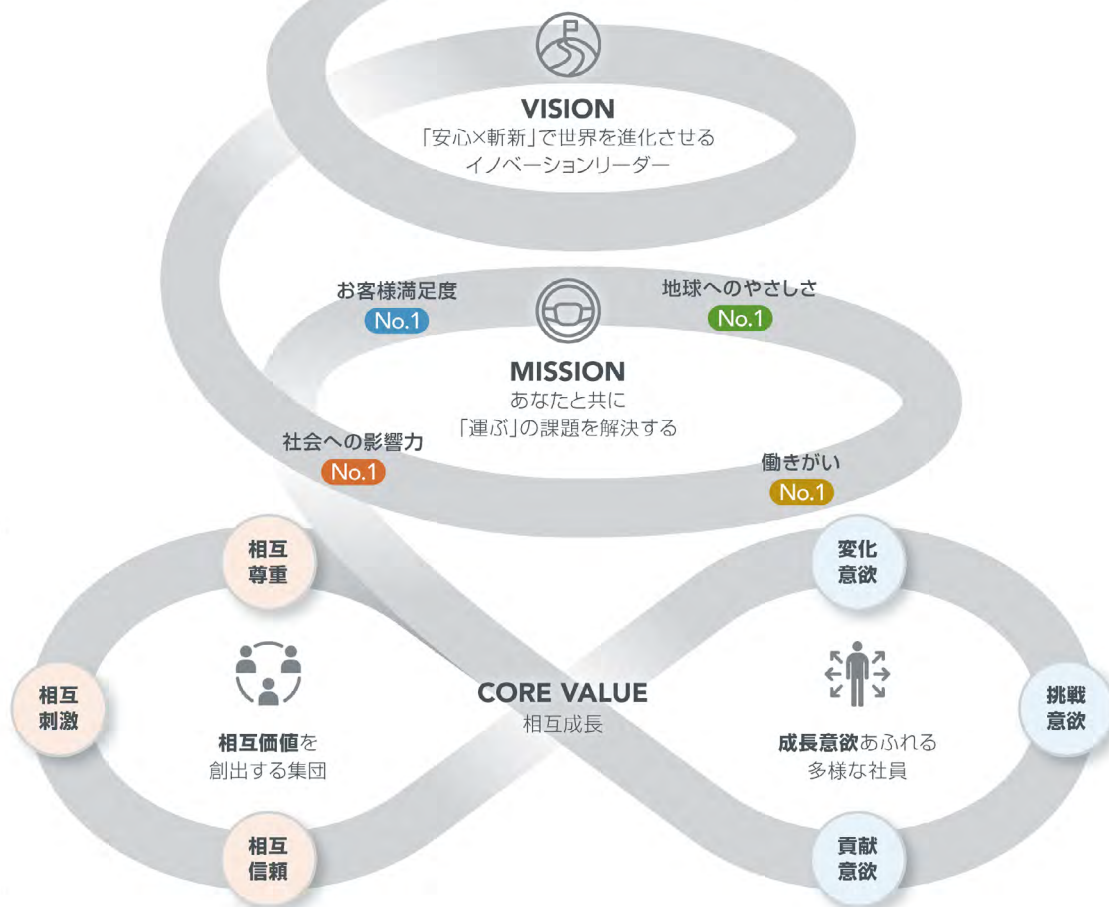
代表者として業界をリードし、  
責任を果たすことが期待されている



## 地球の「運ぶ」を創造する



**ISUZU IKIGAI**  
生きがい



**ISUZU IDEALS**  
信念

## 経営理念体系



PURPOSE(使命)、VISION(将来像)、MISSION(任務)、CORE VALUE(コア・バリュー)という4つの理念が含まれ、それぞれが一本のリボンでつながったデザインになっています。このリボンには、しなやかに形を変えながら、全ての行動や仲間を束ねていくという意味とReborn(リボーン)=いすゞが生まれ変わるという意味を兼ねています。

[ISUZU IDの詳細はこちら](#)

## PURPOSE (使命)

## 地球の「運ぶ」を創造する

従来の企業理念の「『運ぶ』を支え」の枠を超え、お客様、そしてパートナーの皆さまと地球上のすべてのモノ・ヒトの「運ぶ」を主体的に創造するとともに、カーボンニュートラルへの対応や、進化する物流への貢献など、新たな「運ぶ」の価値を提供し、社会を豊かにしていきたい、という決意を表しています。

## VISION (将来像)



「安心×斬新」で世界を進化させる  
イノベーションリーダー

あらゆる社会課題の解決に貢献していくために、従来大切にしてきた「安心」に、「斬新」を掛け合わせ、「イノベーションリーダー」を目指します。

## MISSION (任務)



あなたと共に「運ぶ」の課題を  
解決する

すべての人々と共に社会を前進させるという意志を込め、4つの分野(お客様満足度・地球へのやさしさ・働きがい・社会への影響力)でNo.1を目指します。

## CORE VALUE (コア・バリュー)

## 相互成長



相互価値を創出する集団



成長意欲あふれる多様な社員

イノベーションリーダーとして「運ぶ」の課題を解決するためには、いすゞグループ従業員が丸となり、一つの方向を目指す必要があると考え、「相互成長」をコア・バリューに設定しました。一人ひとりが挑戦し、変化し、貢献する意欲を持ち、集団として相互に尊重し、信頼し、そして刺激し合うことにより、成長します。



いすゞのワクワクを伝え、  
地球一魅力ある企業に!



多様性を持ち、千差万別に人に対して、  
フィードバックを大事にしよう



変化を恐れずに楽しむ



文句をアイデアに、  
失敗をチャンスに変える



自分の意志を持ち、  
安心×斬新なものづくりを!

# I Do Campaign

一人ひとりが「I Do宣言」を行い、主体性を持って結果にこだわり、コミットメントしていく、全従業員参加型のキャンペーン。

行動=変化を起こし、ISUZU IDの体現者となることで、イノベーションカルチャーを生み出すことを目指しています。



いすゞグループを  
お客様の笑顔に尽くす  
集団にする



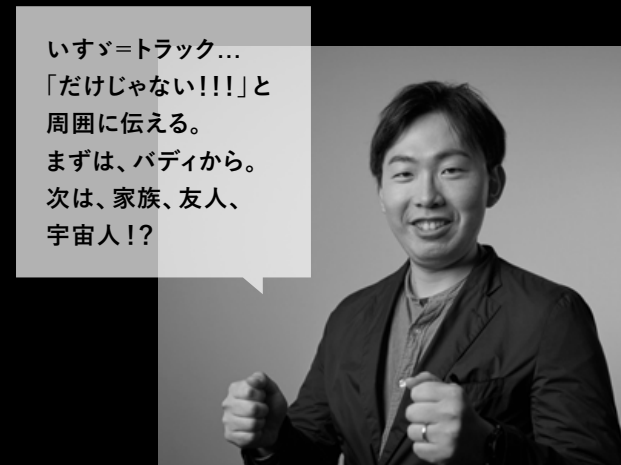
現場を見て、人から聞いて学び  
誰も取り残さない社会を。  
LCVでタイから世界へ!



いすゞの変革を、  
他社や日本全体に  
刺激を与えるものにする



何だってできると前向きに、  
誰かの助けになれる人になる



いすゞ=トラック...  
「だけじゃない!!!」と  
周囲に伝える。  
まずは、バディから。  
次は、家族、友人、  
宇宙人!?

# 新たないすゞの船出に向けて、「ISUZU INNOVATION DAY」を開催

いすゞは、2023年4月に、「ISUZU INNOVATION DAY」(以下、本イベント)を2日間にわたって開催しました。会長や社長、役員をはじめとした部長職以上の役職者と、新たな経営理念体系「ISUZU ID」の社内浸透を担うチェンジアンバサダー(CA)である600人以上の社員が参加。様々な属性の社員が一堂に会して、互いに交流し、刺激し合いながら、ISUZU IDについての理解を深め、新たないすゞをつくっていくための行動を開始する契機となることを目的に、様々な企画が執り行われました。

## ▶▶ ISUZU IDに対する役員の見解

本イベント内で実施した「役員パネルディスカッション」には、2日間で合計17名の役員が登壇。ISUZU IDに対する率直な印象を語りました。

いすゞの経営が厳しかった頃を知る身からすると、ISUZU IDで掲げていることを口にするのは、どうしても抵抗があったというのが正直なところ。しかし、次の世代の人たちにはその躊躇がなく、それが嬉しく感じました。彼らの意見を大切にしながら、私たち自身も変わっていきたい。そう決意を新たにしています。

「安心」という言葉には、これまで守り続けてきたいすゞらしさを感じます。しかし、それに加え、これからは「斬新」が必要です。いすゞにも実に様々な人がいて、それぞれに潜在能力があるので、うまく引き出してくことで、新しいいすゞらしさが出てくると思っています。

## ▶▶ 参加したCAの声

本イベント終了後に、参加した幅広い年代、幅広い職種のCAから当日の感想を聞きました。

私が普段感じないような意見が若い方から出たり、私が思っていることを若い方が素直に受け止めてくれたりする中で、これからいすゞが変わっていくのだという共通認識のもとで、年齢も超え、性別も超えたいすゞというチームの一体感みたいなものを、このイベントの中で発見できました。(50代男性)

いすゞがこんなことするんだ、というのが正直な感想です。全社員が参加できる形で是非全社イベントを今後も続けていただきたいです。速度が遅いと期待外れ感があるので、速いスピードで変化し、常態化してほしい。その一助となれるよう、私も努力します。(20代女性)

座学ではなく対談形式のため「想い」が伝わり、経営理念体系の理解と同時に心に刺さりました。(30代男性)

## 開催に際して南新社長からのコメント



一番の目標はISUZU IDを理解してもらうことですが、参加される皆さんにはぜひ真剣に議論してもらいたいと思っています。私

たちはこれからどんどん外に出て、いろいろな刺激を受けて、「斬新」をつくっていく必要がある。ISUZU INNOVATION DAYという場をそのためのステップにしてもらうことを期待しています。

## 社内の一体感を加速させる活動を継続

本イベント後は、CAが主体となり部門ごとにタウンホールミーティングを実施。役員との懇親会や意見交換の場も設け、社内変革に向けた話し合いを開始しています。また社員が気軽に意見を発信できる場として社内SNSの運用も開始。ISUZU IDの実現に向け、社内の一体感を加速させる活動を継続しています。



部門ごとのタウンホールミーティング

社内SNSのイメージ

**NH Naoki Hiramasa ISZJ**  
5月19日

141平山です。  
チェンジアンバサダーとして初々のお仕事。  
本日、生産部門の一部のアンバサダーと南社長との懇親会がありました。  
皆さんと、さん付の名札が。しかしまあ、対談は緊張した。自分の話をするタイミングとか、振られた時のトークとか。プレゼンではなく対談ってものの難しさを痛感。(アムネットワークの方や個人って面白い)

他のCAさんやこれからの展開方法に悩んでたし、もっと意見交流すれば良い案が生まれるかも！と、思いました。  
#ISUZUINNOVATIONDAY

ISUZU INNOVATION DAY当日の様子はこちら

# CONTENTS

いすゞ自動車株式会社 統合報告書 2023

## 02

### 新経営理念体系

- 02 新経営理念体系
- 05 I Do Campaign
- 06 ISUZU INNOVATION DAY

## 08

### TOP MESSAGE

- 09 CEO MESSAGE
- 14 COO MESSAGE

## 17

### いすゞグループの概要

- 17 商品ラインナップ
- 18 At a Glance
- 19 「運ぶ」の進化を支え続けてきたいすゞ

## 20

### Special Feature

#### エルフモデルチェンジに見るいすゞの価値創造

- 20 ELF MODEL CHANGE HISTORY
- 22 新型エルフが提供する価値とは
- 24 開発の軌跡をたどる

## 27

### いすゞの価値創造ストーリー

- 28 いすゞの価値創造ストーリー
- 31 価値創造を支える競争力の源泉
- 32 バリューチェーン

## 35

### 中長期戦略

- 36 中期経営計画2024
- 37 CFO MESSAGE
- 40 イノベーションを実現するアライアンス体制
- 41 イノベーションを実現する中長期戦略
- 42 多様なニーズに応えるカーボンニュートラル車両の開発
- 45 事業活動から直接排出されるGHGゼロへの挑戦
- 46 リビルト・リマニュユニット車両活用による循環型社会の実現
- 48 運行管理・稼働サポートサービスの進化による提供価値拡大
- 49 自動運転技術の開発
- 50 先進安全技術の開発・適用

## 51

### 価値創造を支える基礎

- 52 サステナビリティを推進するガバナンス体制
- 53 いすゞのマテリアリティ
- 54 TCFDフレームワークに基づく開示
- 56 技術の向上と信頼できる製品・サービスの提供
- 57 従業員の尊重と多様性
- 59 人権尊重への取り組み
- 60 サプライチェーン・マネジメント
- 61 地域・ステークホルダーとの共存・共栄
- 62 コーポレート・ガバナンス
- 70 コンプライアンス
- 71 リスクマネジメント
- 73 社外取締役対談

## 76

### 財務・非財務パフォーマンス

- 77 主要財務データ
- 78 財務ハイライト
- 79 非財務ハイライト
- 80 関係会社情報
- 81 会社情報・株式情報
- 82 ステークホルダーとの信頼関係の構築

#### 編集方針

いすゞグループの中長期的な事業戦略とその戦略を支える事業基盤、事業を通じた社会課題の解決への取り組みをステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的に、統合報告書を発行しています。本書を通じ、当社が目指す経営についてご理解いただくとともに、当社との対話ツールとしてご活用いただきたいと考えています。

#### ● 報告対象の範囲

いすゞ自動車株式会社(単体)を中心に、国内・海外のいすゞグループ会社の財務・非財務情報について報告しています。

#### ● 報告対象の期間

原則として、2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日まで)の活動について記載しています。ただし、報告対象期間以降の活動内容も記載しています。

#### ● 発行情報

2023年9月発行(次回：2024年9月発行予定)

#### ● 参考にしたガイドライン

- ・IFRS Foundation「統合報告フレームワーク」「SASBスタンダード」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス」
- ・Global Reporting Initiative「GRIスタンダード」

#### ● 見通しに関する注記事項

本書に記載されている将来の業績に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行の変更などが含まれます。



#### ● 報告書に関するお問い合わせ

いすゞ自動車株式会社 サステナビリティ推進部 環境・CSR企画グループ  
TEL：045-299-9126

#### ● 情報開示体系の位置づけ



財務 ← → 非財務